



マメナシの実 (2015. 10. 26 撮影)

マメナシの蕾・花 (2016. 3. 25 撮影)



せと 歴史と文化財を知る見学会 平成29年度「水南のマメナシ界限」第3回

主催：瀬戸市歴史文化基本構想を活用した
観光拠点形成のための協議会（瀬戸市文化課）
協力：せとマメナシ観察会
（資料中の※写真は、せとマメナシ観察会提供）

日時：平成30年1月20日（土）午後1時00分～

スケジュール：午後1時00分 水南小学校駐車場集合・指定木へ移動

（予定時間） 1時15分 あいさつ

1時20分 マメナシと樹勢回復作業についての説明

1時30分 樹勢回復作業開始

2時15分 作業終了 閉会・解散



1 マメナシの樹勢回復

平成24年10月 愛知県尾張農林水産事務所による「ふるさと樹木診断」で水南小のマメナシを樹木診断

平成26・27年 セとマメナシ観察会が指定木の樹勢の衰えを危惧し、27年秋に文化課と協議

平成28年3月 水南小学校で指定木南東のモミジバフウを強剪定

平成28年8月 市文化課が指定木南東のモミジバフウをさらに強剪定

平成29年2月 指定木根を南東にも伸ばすため、市文化課が水南小と協議し、通学路を南側へ2m迂回させる。

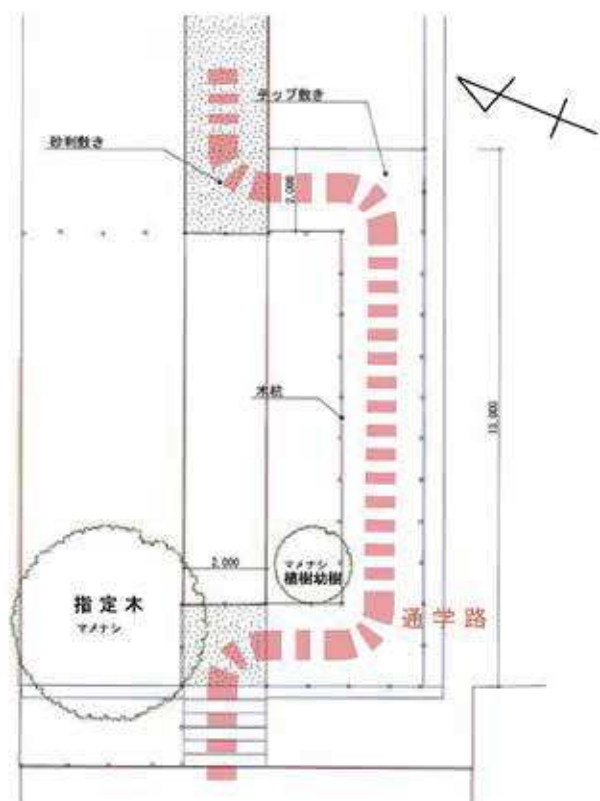
同時に森林公園からの移植マメナシを将来移植するため根回しを実施。

平成29年3月 土壌が硬くなっている部分を中心に土壌改良を部分的に2回行う。

平成30年1月 土壌が硬くなっている部分を中心に土壌改良を部分的に行う。



マメナシ指定木とモミジバフウ※ (2015. 5. 8 撮影)



マメナシ樹勢回復のための通学路の迂回

2 土壌改良（根から元気に）

本日の体験作業は、マメナシ指定木の根の広がるべき旧通学路部分を中心として、固化した地面を部分的に柔らかくするための土壌改良（スポット改良）を人力で行います。

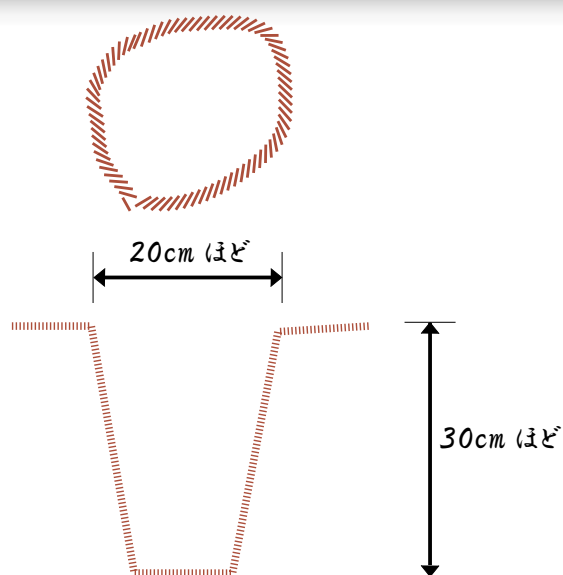
この作業によって、マメナシの根が伸ばせられる環境を整えます。

スコップや小型のツルハシなどで、径 20cm 程の穴を一回に 10 か所程、根の張るであろう 30cm 程の深さまで掘ります。

掘り起こした土は、小石や礫を取り除き、土壌改良材（パーライト）と混ぜてもとの場所に埋め戻して土壌を部分的に柔らかくします。

スポット改良の際は、指定木の根が露わになることも考えられますが、根は切らずに微細な毛根もできる限り傷めないよう慎重に作業を行います。

人数が多い場合は、周りの参加者に気をつけながら、係員の指示に従って、ケガのないよう作業を行きましょう。



今後のスケジュール <2月> せと歴！ 見てみよう！発掘調査

日 時：2月17日（土） ①午前10時～正午 ②午後1時30分～午後3時

集合・解散場所：瀬戸市文化センター北駐車場

内 容：広久手古窯跡群の発掘調査や広久手第30号窯跡を見学します。

定 員：各回30名 参加費：無料

申込み：電話またはFAXでお申し込みください。2月1日（木）午前10時～受付開始。



本事業は、平成29年度歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業（文化芸術振興費補助金）を活用して実施しています。



せと 歴史と文化財を知る見学会
平成28年度「水南のマメナシ界限」第1回

主催：瀬戸市・（公財）瀬戸市文化振興財団

協力：せとマメナシ観察会

(資料中の*写真は、せとマメナシ観察会提供)

日時：平成28年4月10日（日）午後1時30分～

見学コース：午後1時30分 水南小学校駐車場集合・出発

(予定時間) 1 時 4 5 分 街中のマメナシ、水南小学校の名木 (クスノキ・トチノキほか) 解説

2時10分 県有林のマメナシ解説

2時35分 水南中窯跡の解説・出土遺物の解説

3時00分 マメナシ指定木等の解説

3時50分 閉会・解散

瀬戸市域の主な指定・登録文化財

やきものの生産
の変遷

今回見学する文化財（含天然記念物）と

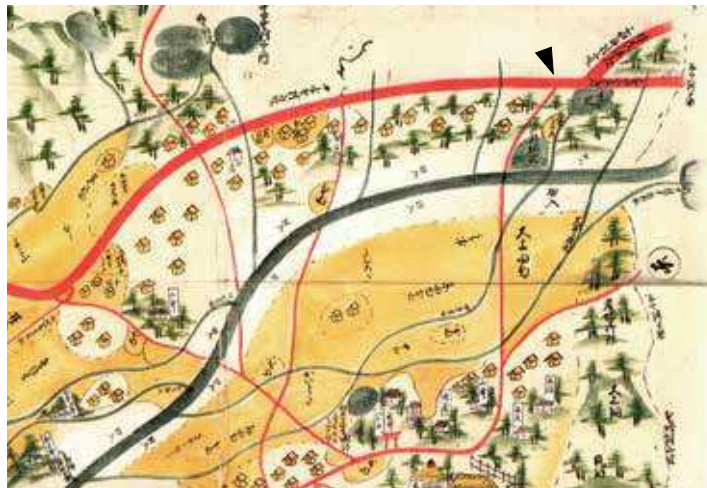
その関連年表

			その関連年表	
本地大塚古墳(西本地町2丁目) 宮地古墳群(上之山町2丁目) 広久手 30 号窯跡 木造十一面観音菩薩立像(下半田川町) 県 木造阿弥陀如来立像(下半田川町) 県	古墳	飛鳥	5世紀	須恵器
			6世紀	
	奈良	7世紀	灰釉陶器	
		8世紀		
	平安	9世紀	山茶碗	
		10世紀		
		11世紀		
		12世紀		
	鎌倉	13世紀	古瀬戸	13 世紀前葉～中葉 水南小前窯跡の操業 13 世紀中葉～末 水南中窯跡の操業
		南北朝		14世紀
室町	15世紀	大窯製品		
	戦国		16世紀	
江戸	安土・桃山	17世紀	連房製品	
		18世紀		
	近代	(明治)	(寛政 4 (1792) 年 村絵図)	
		(大正)		19世紀
(昭和)		20世紀		
			21世紀	昭和 4 (1929) 水野尋常高等小学校分教場開設 昭和 11 (1936) 水野第一尋常小学校創立 (昭和 16 年に国民学校令により水野村南国民学校と改称 昭和 26 年に瀬戸市立水南小学校となる)

1 水南小学校周辺地区の変遷

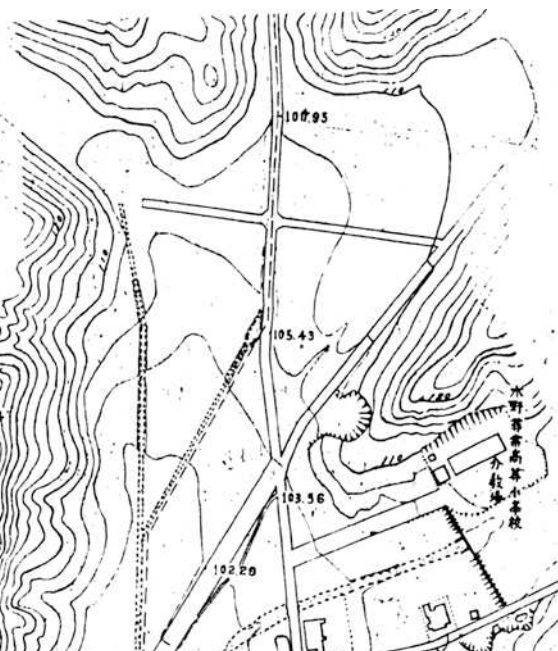


現在の水南小学校周辺の孫田川上流域は、江戸時代の村絵図では、中水野村の南端の「御林」の一部で、人家もまばらな山林でした。南側近くの信州飯田街道附近の人家は、明治 38(1905) 年の瀬戸電気鉄道の横山駅(現新瀬戸駅)開業など、近代に孫田川下・中流域に広がっていきます。しかし、昭和 4 年に水野尋常高等小学校分教場を現在の小学校敷地に開設した時には、まだその周辺には住宅等は少なかったようです。昭和 20 年まで順調にこの地区の人口は増加し、戦後の横ばい期を経て、昭和 40 年代から再び増加を始めます。水南小学校の東側谷の奥部に宅地開発が及び始めたのは、昭和 40 年代からのようです。

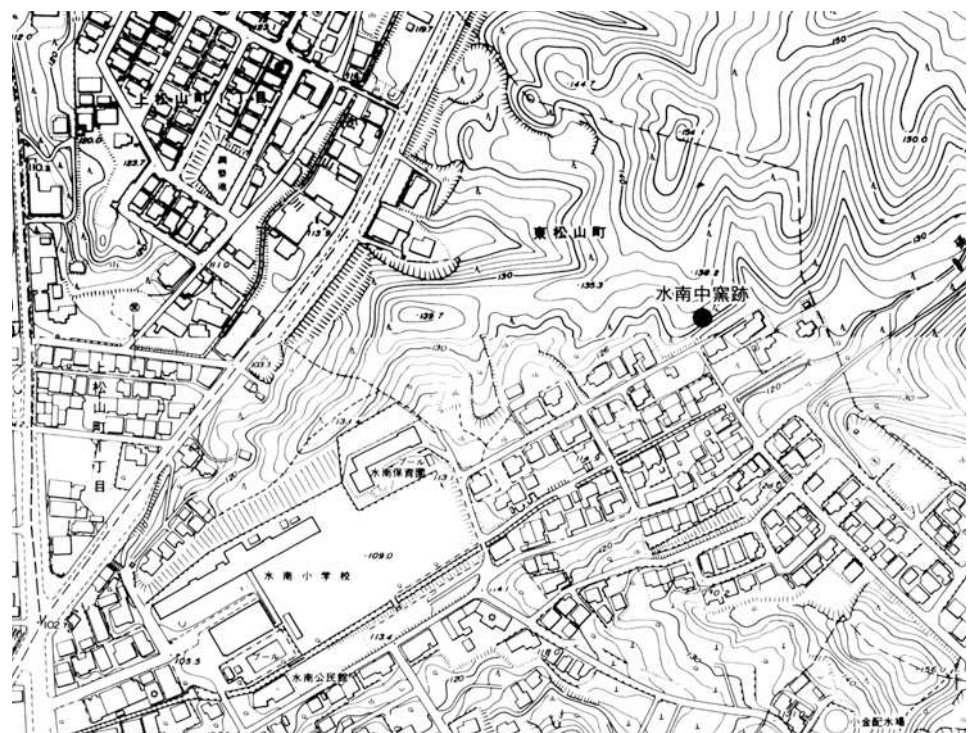


参考：瀬戸市立水南小学校 1985
『我が母校 すいなん 50 周年記念誌』

上: 中水野村絵図(南半) 下: 今村絵図(北半)
(ともに寛政 4(1792) 年作成)
(徳川黎明会蔵(『瀬戸市史 資料編一 村絵図』より))



水野尋常高等小学校分教場
周辺地形図
(昭和 4(1929) 年頃)

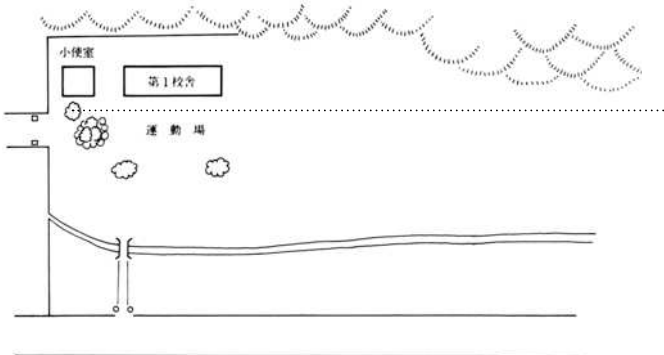


水南小学校周辺地形図(平成 5(1993) 年頃)

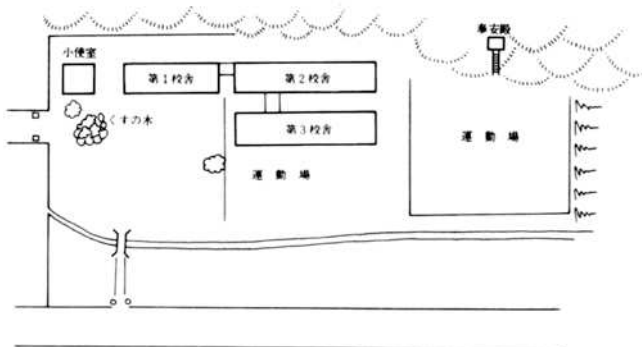
2「名木」の宝庫である水南小学校

昭和2(1927)年度末に水野村名南部の小学生の瀬戸町への越境入学が禁じられたことに端を発する、昭和4年の小学校分教場設置(昭和11年から水野第一尋常小学校設立)から今日に至るまで長い歴史を持つ水南小学校ですが、校内には数多くの大木・名木や希少植物が育まれ、児童の成長を見守ってきました。

①(昭和4(1929)年頃)水野尋常高等小学校分教場開設時



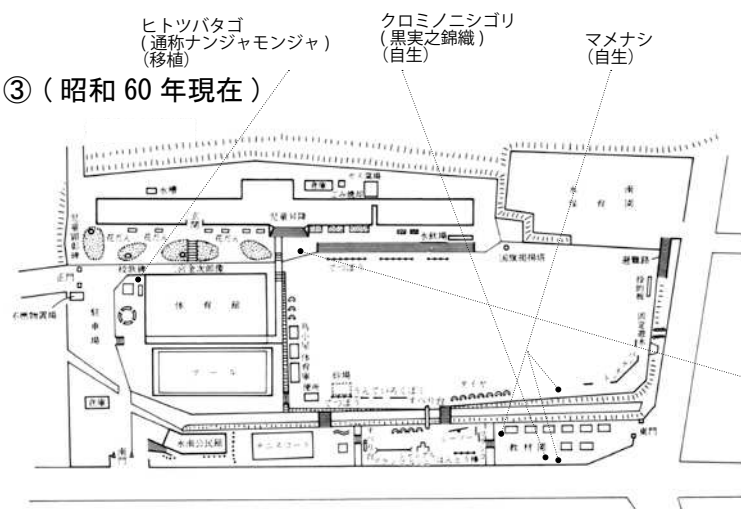
②(昭和16(1941)年頃)第3校舎増築時



クスノキ(瀬戸の名木No.48)

上:現在(2007.04.21)※ 下:昭和11年当時※※
上:樹高16m 幹周3.07m 下:樹高1.5m 幹周0.3~0.4m
昭和4(1925)に移植

③(昭和60年現在)



水南小学校敷地変遷図

変遷図・※※画像は(水南小学校1985)より



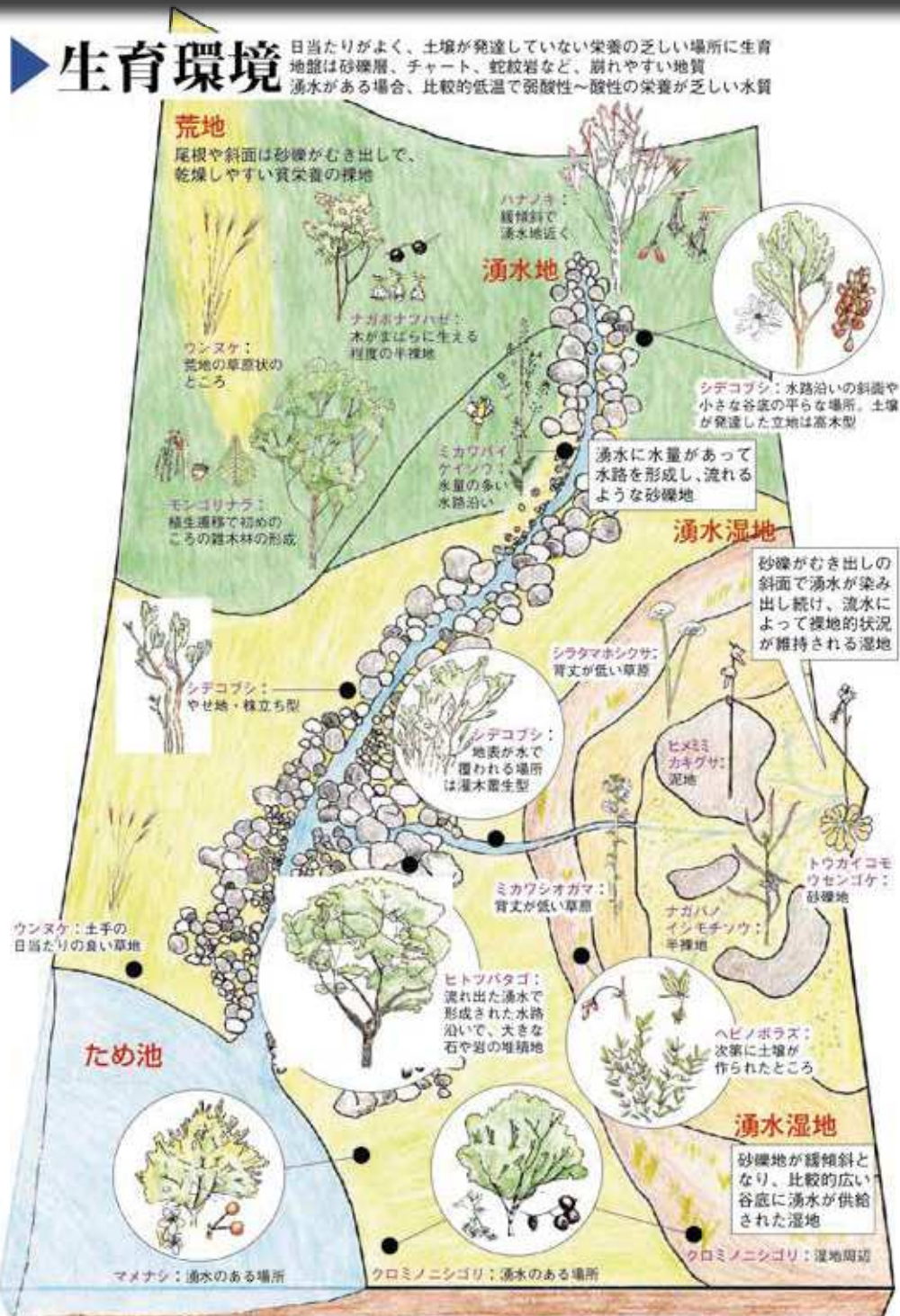
トチノキ(瀬戸の名木No.77)

上:現在(2007.04.21)※ 下:昭和11年当時※※
樹高16m 幹周3.07m
昭和48(1973)年に移植

3 東海丘陵要素植物

「東海丘陵要素植物」は、世界中でも日本の愛知県・岐阜県・三重県など伊勢湾周辺の東海地方に特徴的に生息する植物群で、他の地方ではもともと分布していなかったり絶滅してしまったなどの理由で、今日この地方を中心として遺存しているもの。東海丘陵要素植物の生息地の主な地質は、河川、扇状地、湖沼など様々な環境で堆積した砂礫層を中心とした堆積物です。生息環境は、下図のように日当たりがよく、貧栄養な土地に特徴的にみられます。

そんな東海丘陵要素植物も、近年の環境変化によりマメナシをはじめとする絶滅危惧種も多く存在し、生物多様性が求められる中、それらの生息環境の保全が模索されています。



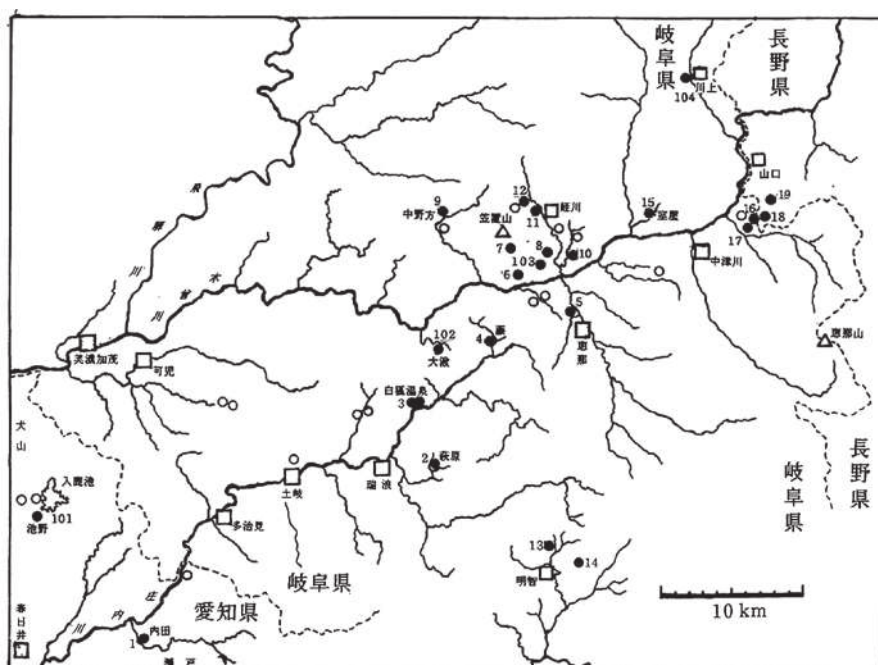
企画制作：(財)日本野鳥の会 文：吉鶴誠則 イラスト：川田奈穂子



クロミノニシゴリ分布図 ((長益 1992) より)



南側教材園の
クロミノニシゴリ※
(2008. 6. 13 撮影)



ヒトツバタゴ分布図 ((太田・石岡 1990) より)



体育館北西の
ヒトツバタゴ (移植) ※
(2015. 5. 12 撮影)



フモトミズナラの葉と種実※
(2005. 10. 5 撮影)

参考・引用

：石岡孝吉 1990「ヒトツバタゴ自生地の地質学的概査ならびに自生地がごく限定されることと地質との対応について」

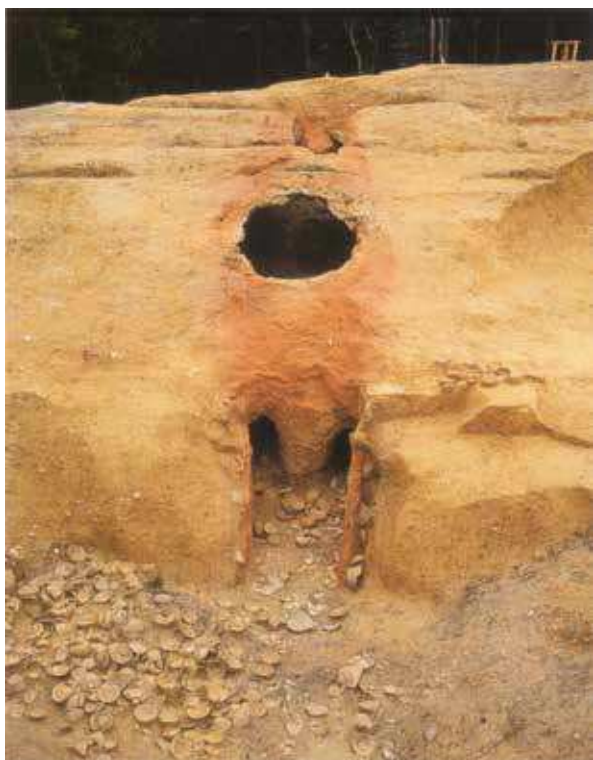
『椋山女学園大学研究論集第 21 号第 1 部』

植田邦彦 1989「東海丘陵要素の植物地理 I . 定義」『植物分類・地理 Vol.40 No.5』植物分類地理学会

豊田市自然観察の森 2007『東海丘陵要素植物群 ～郷土の宝の植物たち～』

長益英敏 1992「クロミノニシゴリの分布」『植物分類・地理 Vol.43 No.2』植物分類地理学会

4 鎌倉時代の窯跡「水南中窯跡」^{すいなんなか}

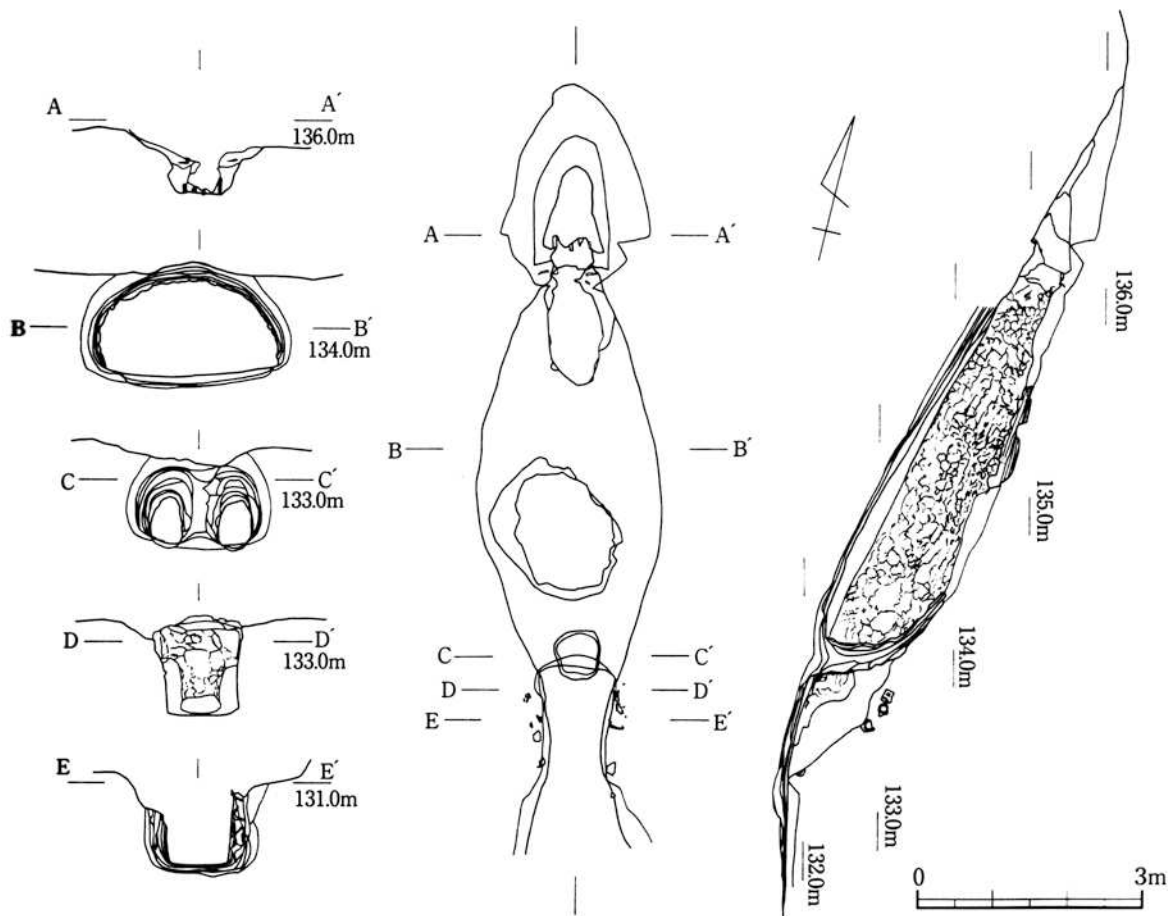


水南中窯跡 窯体全景

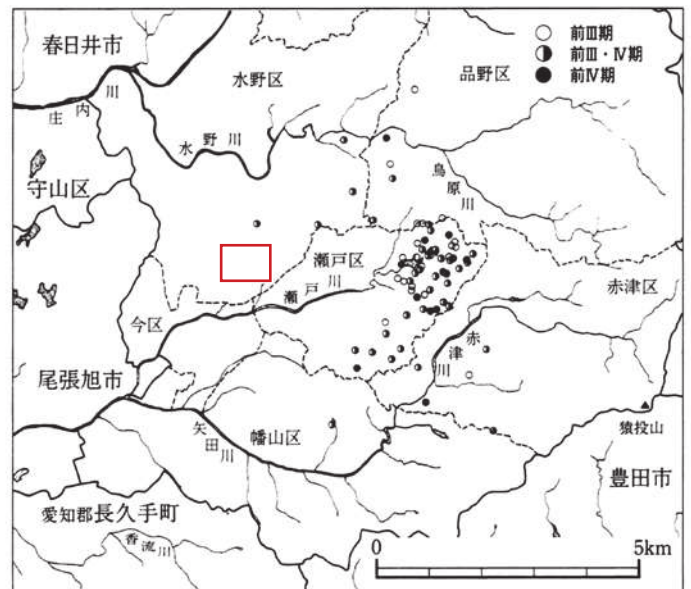
水南小学校周辺には、鎌倉時代(13世紀)の窯跡が2基(水南小前窯跡・水南中窯跡)存在していました。現在は開発行為に伴い2基とも発掘調査後滅失しています。

水南中窯跡では、日用雑器の山茶碗・小皿や片口鉢、灰釉を施した四耳壺・水注・卸皿などの古瀬戸を焼いていました。近隣で粘土や燃料等を調達し、工房でロクロ成形した後、1ヶ所の窖窯で製品を焼成しました。

中世瀬戸窯の窯場は、工人が燃料等を求めて移動していきます。菱野・端山丘陵に始まった古瀬戸生産の窯場は、水野丘陵などに拡散する中で30～80年この地で操業し、その後馬ヶ城や品野・赤津地区に移動していったものと考えられます。



水南中窯跡 窯体実測図



古瀬戸焼成窯分布図（（藤澤 2005）より）赤枠はP10の今回見学地範囲

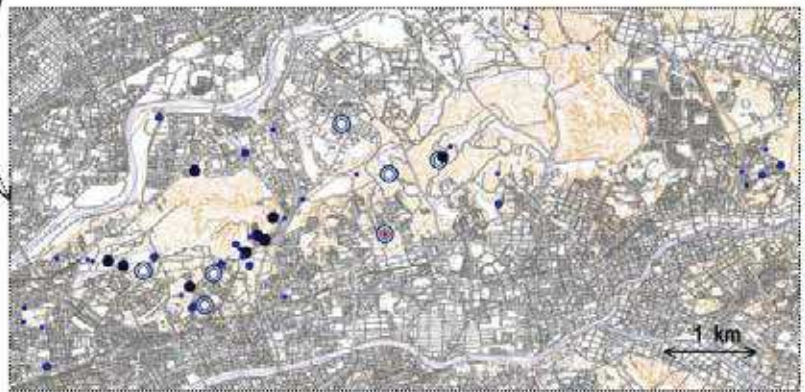
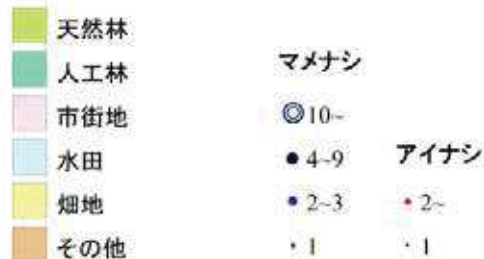
5 マメナシ【市指定天然記念物】

マメナシ（三重ではイヌナシと呼ばれる）は、更新世の最終氷期（7 万年前のヴェルム氷期）からの遺存植物です。日本では、愛知県・三重県等の極めて狭い地域に分布が限られており、絶滅危惧種（愛知県のレッドデータブックでは I A 類）に選定されています。

サクラと同様、バラ科の落葉高木で、湿地や溜池などの湧き水のある場所に生息します。かつては東松山町から進陶町にかけて群落がみられたようですが、現在は市内には 8 本の自生木が確認されているのみです。



マメナシの種実・花・実生※※（撮影 今井淳）



マメナシ（およびアイナシ）の現存個体・個体群の分布状況※※
（Pc1 ～ 6 は、葉緑体・核 DNA の多解析の結果に基づいて区分した集団（岐阜大学応用生物科学部調査による））



多度（桑名市）のイヌナシ自生地※※
【国指定】（撮影 今井淳）



大草（小牧市太良上池）のマメナシ自生地
【県指定】（（愛史協 2011）より）

※※図版・画像は（加藤ほか 2014）より



マメナシ指定木※
(2008. 4. 6 撮影 東より)



マメナシ指定木※
(2015. 10. 27 撮影 東より) 右は2016. 4. 5 撮影



マメナシ指定木の
樹木医診断 (2012. 10. 31)



「焼肉末広の木」のマメナシ
(2016. 4. 5 撮影)



「グラウンドの木」マメナシ
(2016. 4. 5 撮影)



「小学校東 県有林」のマメナシ
(2016. 4. 5 撮影)

参考：加藤珠理・今井 淳・西岡理絵・向井 譲 2014「希少種マメナシの地理的遺伝構造の評価」『森林遺伝育種 第3巻』
愛知県史跡整備市町村協議会 2011『愛知県 名勝・天然記念物 保護活用事例集』

せとマメナシ観察会の活動

せとマメナシ観察会の
水南小学校での活動
(平成 27 年度) の一例



(ホームページ <http://www.ab.auone-net.jp/~mamenasi/>)



苗の植樹 (1 年生) 5 月 8 日



観察学習 (2 年生) 5 月 20 日



卒業記念植樹 (6 年生) 3 月 14 日
(瀬戸市立水南小学校 HP より)

H28 せと歴！「水南のマメナシ界隈」1

H28.4.10 見学コース

●マメナシ ○他の樹木

